



龍谷大学校友会 / 福岡県2支部交流懇親会

ついに開催!

昨年(2019)の10月25日夕刻、小倉ステーションホテルにて、北豊支部から29名、福岡支部から18名が参集し標記懇親会が開催されました。

過去の経緯から(今まで何度も述べてきたことで、ここでは省略します)北豊・福岡の2支部に分かれての福岡県での龍谷大学校友会としての活動ですが、このたびめでたく(?)合同での会合となり、全県下における交流が図られるようになりました。

開会にあたっての乾杯では、岡部慈眼・福岡支部長(1954年・文学部卒)より「今からおよそ70年前の在学中から福岡県の交流は(二豊会)と(両筑会)に分かれ、県統一の交流会は当時からの念願でした」とご挨拶いただき、その歴

史の一端に触れた思いのしたことでした。

その後食事を取りつつお互いに言葉を交わすうち、初めて会った人でも共通の知人や当時の話題で盛り上がりたり、

また、会の後半では、当時のコンパを思い出しつつ歌(主に春歌!)を歌ったり(ところがみんな年のせいか、最後まで歌えた歌はありませんでした。それでもご協力、有り難うございました)、豪華賞品をかけて《京都ピンゴ》をしたりと、龍谷大学校友会ならではの楽しい一時を過ごしました。

最後はお決まりの『学歌』と『逍遙の歌』となりましたが、逍遙の歌に関しては八十年配の校友の皆さんが口々に「当時はこんな歌はなかった」と言われ、ここでも歴史の変遷を感じさせられたことでした。

その後、博多での再会を約して三三五五と小倉の街へ消えていき、このたびの交流懇親会は終了となりました。

注*1二豊会(北豊支部地区及び大分県の北部)・豊後(大分県の豊前以外の地区)の二地方を指す。以前の龍谷大学においてはこの二豊会の名のもと、両地区出身の学生が交流を図つたと聞く。

*2両筑会(筑前・筑後の二地方(福岡県の豊前以外の地区)を指す。以下同文。

*3...と聞く(この会報は改まった公のものではないため、編集者があいまいな記憶を元に適当に書いている部分があります。誤った記述の場合、ご指摘のほどお願いします。

2020年度支部総会のお知らせ

去る2月3日に役員会が開催され、来年度の総会・懇親会の概要が決定いたしました。まだ4ヶ月先のことですが、どうぞご予定にお書き加え下さい。後日、また正式にご案内申し上げます。

日時 2020年6月28日(日)
▷17時・総会行事▷17時30分・懇親会
*懇親会のアトラクションとして熊谷正明氏(1983年・文学部卒、吹奏楽部OB、本願寺「子ども・若者ご縁づくり推進室」部長)によるアルトサックス演奏を準備。

会場 JR小倉駅 小倉ステーションホテル
会費 一般会員-7千円、女性会員-6千円
20代会員-5千円



乾杯のご挨拶に立つ岡部慈眼・福岡支部長

私の龍谷大学での最初の思い出は、入学式の日の疎水の満開の桜です。

第一志望の立命館大学を落ちて（「龍大あるある」ではないでしょうか。笑）入学式の日がきても、あまり行きたい気分ではありませんでした。でも、深草の満開の桜と、顕真館の前で声をかけてくれたサークル勧誘の男子学生さんのおかげで、少しうれしくなりました。

疎水は、もっと北のほうでは流れも速く水も澄んでいたように思いますが、深草あたりでは淀み、まわりもフェンスで囲まれているのが残念でした。でも、桜はきれいだと思います。

私が入学したのは1985年で、紫明館、図書館、顕真館が新しくなったと思います。

私は吹奏楽部に入りました。

私の大学生活はその吹奏楽部での部活動一色で、このリレーエッセイの依頼を受けたときも、いざ思い出そうとしても他のことは何も思い出せませんでした（そしてまた今はそのご縁で、私はこの地域出身ではないのにこの支部に籍をおき、たいへんお世話になっています）。

吹奏楽部の活動は、当時、平日は5時前に集合して3時間ほど練習。土曜、日曜は

朝9時すぎから夜まで。一年のうち、冬休みの一ヶ月くらいを除いて、ほとんど毎日練習していました。その他にも、他大学との合同演奏会や、活動資金を得るためのアルバイト演奏などもしていました。私にとっては忙しい毎日でした。

紫明館の三階が学術文化局のボックスで、東の角が吹奏楽部の部室でした。練習のときは違った和やかなみんなの会話が好きでした。隣のラポールからは、いつも歌声

校友リレーエッセイ
今でも目に浮かぶもの

1989年・文学部卒

中川 治美



が聞こえていました。

だいたい私は素直ではないので、吹奏楽をやりながらもそれをやめて、どこか他の大学のオーケストラに入ろうかといつも考えていました。その頃龍大にはオーケストラがなくがっかりしていて、何となく吹奏楽部の様子を見に行つて、そのまま入部してしまつたのでした。

それでもやめなかつたのはその時のタイミングで、思いがけず、京都・関西などで活躍されている先生の指導を仰ぐことがで

きたことと、何ととっても、龍大吹奏楽部の持つ独特の雰囲気が好きだったからだと思えます。それは、理屈をいわず率先してはたらくことや、変に偉そうにしないところなどです。また大人に逆らうことはありませんが、各自がやりたいことのイメージをしっかりと持ち、プライドを持って音楽に臨んでいました。

今思えば、みんな学生だったけれど、結構大人っぽい楽団でした。それは代々受け継がれてきたものだったであろうし、今も続いているといいなと思います。

大学というところは勉強するところです。そういう意味では私は全然できていませんでした。要領が悪く、一度に二つ以上のことができません。専攻クラスの人たちとあまり一緒にいられなかったことも残念です。今更ですが、もう一度入学できたら、今度はちゃんと歴史の勉強をしたいです。

今でも目に浮かぶのは、大宮学舎の守衛所の横に大きな木があつて、木洩れ日（きぼれひ）がきらきらしていたこと。深草学舎15号館の目。図書館。噴水広場のライブ演奏。砂川横断歩道橋から見える警察学校。そして疎水の満開の桜と、それを眺める幼稚な私の姿です。

校友、ついに宮中へ進出!?

当支部会員・栗屋融子さん

《歌会始の儀》に参列

皆さん、宮中にて行われる《歌会始の儀》というものを存じでしょうか。

これはもともと天皇を中心とする皇族による行事でしたが、戦後よりその枠を超えて、その年のお題に沿った作品を一般から募集するようになり、その入選作品が天皇、皇后兩陛下や皇族の歌とともに年頭に皇居の松の間々にて伝統的な節回しで詠み上げられるという、たいへんに由緒ある行事です。

本年は「望」のお題のもと全国から1万5324首の応募作品があり、そこから10首選出のうちの一つに当支部会員・栗屋融子さん(1979年・短期大学部卒、当会報5号の「リレーエッセイ」筆者)の作品が選ばれ、1月16日、宮中で披露された様子がNHKにて生中継で放映されました。

ランドセルは 海渡りゆく
アフガンの子らの希望を



抱き留むるため

栗屋さんは新聞の取材やテレビ放映の中で、「小学校に入学した孫が嬉しそうにランドセルを背負う姿を見て、孫の母親である長女のランドセルを紛争地の子どもに役立てて



ほしいと送ったことを思い出しました。ランドセルには子どもたちの夢や希望がいっぱい詰まっています。学校で学び友と笑いあう。ささやかだけれど大切なひとときを誰もが当たり前に過ごせる世界になってほしい」との願いを託してこの歌を作ったと述べています。

また、短歌を始めたきっかけは、子育てを終えてほっとすると同時に寂しさを感じた心のうちを二十一字で綴ったことだそう。日々の気付きや家族への思いなど、これからも歌で等身大の自分を表現していきたいとのことでした。



俳句にもご堪能な栗屋さんには、今後ますますのご活躍が期待されるところで。

事務局より

1、昨年8月に配付の「会員名簿」にて、左記の誤りがありました。ご関係の皆さまには深くお詫び申し上げます。お問い合わせいたします。

54 鈴木章絵 〈誤〉2003年卒

〈正〉1993年卒

2、年度末にあたり、会費未納の方につきましては振替払込書(青色)を同封いたしますので、どうぞご納入のほど、お願い申し上げます。

もし間違えてご請求の際には、ご寛恕のうえその旨事務局まで一報下さい。

感雑局事務

▼上の「事務局より」にありますとお通り、鈴木さんには名簿上の過ちをご指摘いただき有り難うございました。お詫び申すとともにお礼申し上げます。ところで、変な言い回しのように思えるかもしれませんが、(会報等も含む)事務局としての活動のなかで一番残念なことは、それが発信する側の一方通行になってしまっていること。今回のような指摘があったということは郵送物に丁寧な目を通していただいているということ、このような反応が何よりも有り難いと思える今の立場です。▼前記の件は、昨年10月の福岡支部との交流会の出欠の返信葉書に書き添えられていました。同じように、欠席の通知にその理由を書いて下さっているものをちらほらと目にし、無関心や行事が面白くないからといった理由での欠席ばかりではないんだと、大変に心励まされました。▼とはいえず、やっぱり顔と顔を合わせて交流を図りたいものです。今までの「リレーエッセイ」からも感じるように、大学時代の思い出は本当に独特な他では共有できないもので、ぜひこの校友会にてその思いを語り合いたいものです。1ページにてご案内のとおり来年度の総会懇親会の日程も決定しました。6月は何かと行事の多い月で調整も難しいとは思いますが、どうぞお繰合せご参加下さい。お待ちしております。〔記・〇〕

龍谷写真館 in 北豊



・上、岡部福岡支部長に対抗するわけではありませんが、こちら北豊支部の長老、西明晃雄さん。1957年のご卒業で、現在、支部顧問をお勤めいただいています。

龍谷大学校友会／福岡県2支部交流懇親会 (下、左2枚)

・下、いつもの記念撮影。福岡支部の皆さん、遠いところ有り難うございました。またいつか、今度は博多にてお会いいたしましょう。



・右、今回は藤上良裕(1999年、社会学部研究科卒)、幸恵さん(2000年、社会学部研究科卒)ご夫妻が子どもさん同伴で参加してくれました。和裕くん、大活躍!!



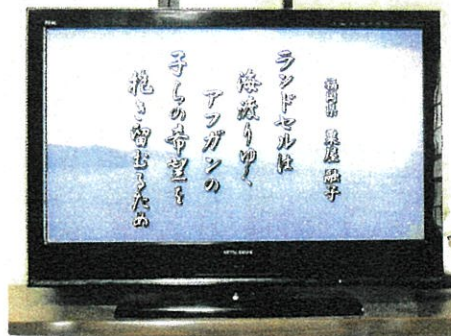
・左、大宮キャンパスにて開催の「龍RON小町第5回総会」の様子。今年は小松資子さん(写真・左から2番目)に支部を代表して出席いただきました。会議もお茶飲み話みたいで楽しそう!?

「龍RON小町」二景 (右、上)
・右、去る2月20日に福岡支部の女子会「龍RON小町」(代表、野上玲子さん・1972年短期大学部卒)にゲスト参加の加藤砂恵子さん(写真・前列右から2番目)。会場はJR博多シテイくうてん内のお店です。やっぱり博多はお洒落! 女性会員の皆さん、次回はあなたもぜひ一緒に! ☺☺☺☺☺



当支部会員・粟屋融子さん さっそうとテレビデビュー (上、右)

・本年1月16日の《歌会始の義》のテレビ放映をカメラで撮ってみました(要はビデオ録画したものを写したのですが……)。上・眩いばかりの着物姿の粟屋さんと、右・その作品。何といても天下のNHKの全国放送です。詳細は3ページをご覧ください。



◎事務局では、校友に関するニュースを随時募集しています。何かご存知のことがありましたら、ぜひ一報下さい。